

どのゲーム	質問内容	回答内容
A	ラボの利用実績1372人は、延べ人数でしょうか？(2回目、3回目を含む)あるいは、実人数でしょうか？	2022年度の利用者数(2回目以降の学生も含む)が1372人です。継続してライティングラボを利用する学生もいるため実利用人数は1372人よりも少ない数になります。ライティングラボを初めて利用する学生を増やすため、利用しやすい環境を整える必要があると考えます。
A	「かつてMirromで行っていた日本語以外のサービス」とは、具体的にどのようなものでしょうか？(過去のことを知らないで)	英語を主とした外国語でのライティングサービスです。具体的には、英語での論文作成のサポート等です。しかし、これまでライティング指導をしていた国際部所属の教員が退職され今年度からサービス終了となっています。現状、英語でのライティングサポートは、①需要が少ないこと(潜在的需要はまた別問題ですが)、②日本語・英語を一定レベル使えるGTA(学生スタッフ)の育成に時間を要すること、などが課題として挙げられます。
A	ライティングラボの講義内容をオンデマンド配信したりしていますか？ 単位が取れるライティングラボの授業もあると思いますが、募集人数が少な過ぎて抽選で落ちる場合が多いと思います。もっと多くの学生に受講させるために、単位というインセンティブを与えることはできないでしょうか？	配信しています。 単位付と可能な授業への受講生募集を増幅させるためには、人数に対応できる教員の確保が必要になると考えられます。また、大人数が受講できる講義形式も検討できますが、ライティングスキル向上には、実践と丁寧なフィードバックが不可欠であり受講生数が増加することによって細かな指導が行き届かぬ懸念点もあります。教育の質をどのように担保するのか今後検討が必要であると考えます。
A	日本語以外のサポートについて、どれぐらいの需要があると考えますか？コスト面などを考え、どのように運営していくのがよいでしょうか。	日本語以外のサポートに対する需要は、大学内で留学生や国際的な研究者が増加している現状においてかなり高いと考えられます。留学生は母国語でのライティングが必要な場面が多く、英語や他の言語でのサポートが求められると考えています。そして、国際的な研究者も自身の研究を国際的な学術雑誌などで発表する際に、母国語以外の言語でのサポートが必要です。これには、日本語以外の言語で論文や報告書を書く場面があるため、それに対するサポートが求められていることが含まれます。コスト対効果の分析を行いながら、運営の効率性を追求することが重要です。オンラインリソースや自己学習ツールなど、コスト対効果の高い手段も検討します。
B	課題発見はどのようにサポートされますか？ 課題の発見がかなり肝になると思うので、その部分のサポートについて何か案があれば教えていただきたいです。学生任せの課題設定となると、かなりふつとした課題の設定になりそうだなと思ったので、ご確認です。	始めは学生の自主性を尊重し、課題設定を行います。 ただご指摘の通り、グループによってはふつとした課題設定になることも想定されます。そのために、各講義ごとに課題テーマの進捗確認を行い、よりブラッシュアップするためにはどうしたらよいかを先生と一緒に話し合います。あくまでも答えを教えるのではなく、最低限のヒントを与えるものです。
B	社会人基礎力を身につけるキャリア支援なのか 企業に就職することのキャリア支援を大切にしているのかで 実行する提案が大きく変わる気がしました。	前者の社会人基礎力を身につけるためのキャリア支援です。 一般的に良い企業に入るためのキャリア支援では、入職後のことを想定していないケースが多いです。本プログラムでは、社会人として働き続けるために何が必要になるかを考えるプログラムです。
B	この点についてどのように考えていますでしょうか？ この魅力的なプログラムを実現するためには、今後どのようにすればよろしいでしょうか。	今回研修のテーマでもある三者協働を意識し、周囲を巻き込むことが重要であると考えます。特に、様々な講師陣を呼ぶのであれば校内でも多くの部署を巻き込むので対応が必要です。この科目の必要性をデータを含めて示すことが必要になると思います。
C	樹形図があり、とてもわかりやすかったです。一方でこれが現実的に実行できていない要因は何なのでしょう。ただ単純にこういう案がなかっただけでしょうか。それとも、縦横の雰囲気や所管部署の兼ね合いなのでしょう。もしそうであれば、誰が(どこが)その役割を担えばよいと考えますか？	私たちの班としては、案がなかったと考えた。質問者のイメージした人物や架空のキャラクターを簡単な質問に答えていくだけで当てる「アキネーター」というゲームを参考に、樹形図の案を考えました。樹形図を作成することで、教務センターや学部オフィスに属していた相談の分散が予想されるので、プラスの方向に進むと考えている。もし所属部署の兼ね合いがあれば、授業関係は教務センター、生活関係は学生相談支援センターが役割を担うことを想定している。
C	学生相談・支援センターの位置が学生にとってわかりにくいというのは、確かに考えられることだと思います。一方で、教務センターや凜風館では人通りが多く、相談窓口に駆け込みにくいのでは？と感じます。その点いかがでしょうか。ご意見お聞かせください。	学生は教務センターや凜風館によく訪れている。逆にそれ以外のオフィスに訪れることが少ない。学生の声を参考にすると、やはり人通りの多い場所に相談窓口を設けるべきである。
C	学生の声として、相談できる関西大学の教職員の数がとても低くご発表いただきましたが、それを改善するためにはどうすればよろしいでしょうか。学生の目線のご意見も頂戴できれば有難いです。	学生目線としては、今回の研修のような教職員と学生が交流する機会が増えてほしい。たくさんオフィスがあるのは知っているが、教務センター以外のオフィスに行くことはほとんどないので、交流する機会が無い。また、教職員相手となるときこまってしまうので、気軽に話せる機会が増えれば改善に繋がると考える。
D	KICCSが使いにくいことは、しばらく前から学生の声として挙がっていました。数%の大学間の就職率の違いで大幅にこういふ案がなかったりする予算措置がなされないことに強い疑問を抱きます。学生の授業でシステムを構築するというご提案ですが、数%を左右する重要なシステムを学生任せにして大丈夫でしょうか？はなはだ疑問です。十分な投資をすべき案件だと思います。(非常勤の先生方から関大LMSは他大より使いやすいというご意見をいただいています。このような刷新を是非お願いします。) また、学生からの声を拾うというご提案ですが、学生は自分の声が届くことではないかと思っ、マイナビやリクナビを使うだけです。システム設計にあたって、不便だ使いたくないという生の声を十分に集めてから、構築していただければ幸いです。 教員側としても面談した結果を入力するシステムが欲しいです。5、6年前に担当していた際に、Excelに入力してキャリアセンターに紙で提出する手順に対し、令和なのは？と思っているながらもやっています。せっかく情報を入力しても学生に届かないことに対して、モチベーションの維持が大変でした。 インターンシップ情報についても、入力側のハードルが下がれば、KICCSに集約して、学生のために情報提供ができるようになると思います。 KICCSの刷新、よろしくお願います。	ご質問ありがとうございます。 D班では、新たなシステムを構築するためには、多大な予算が必要であると考え、改善案①(従来のシステムを応用する)と改善案②(学生がシステムを開発する)を提案しました。一方で、システムの構築を学生に任せるにはかなり難しく、確実性を保証するためにも十分な予算を確保して業者に依頼すべき案件も課題に上りました。 改善案②では、学生自らシステム構築に携わることで学生の「生の声」を吸い上げることができると考えております。ただし、「学生任せ」ではなく、例えば①センターや総合情報学部の先生方、必要に応じてネットワークベンダー等も巻き込みつつ、就職活動用サイト(アプリ)の作成を目指せばと考えております。また、授業の一環としてそういったアプリの開発に携わるといった経験は、学生にとって代えがたい貴重な経験になると推測いたします。学生の挑戦を支援するという面でも、このような連携がなされれば「三者協働」の実現に寄与できると考えました。しかし、新たにアプリやシステムを作るには費用と時間がかかるため、まずは学生の声に耳を傾け、現在のKICCSの課題点や他社サイト(マイナビ、リクナビ等)との違いを洗い出し、改善することで実現可能性が高い「刷新」になるのではないかと考えます。
D	面談した結果を入力するシステムが欲しい」とのことについて、貴重なご意見ありがとうございます。本学としては数年前よりペーパーレス化を推進してはおりますが、依然として紙媒体での運用が随所に根強く残っております。Excelに入力後、キャリアセンターが受理・処理を行った後、面談していただいた教員と学生に自動でその内容がメールで送られるようなシステムを作成することで問題解決につながるのではないかと考えます。Microsoft Officeサービスの一端に、そういった自動化フローを組み込めるシステムがごございますので、こちらについては実現可能性が高い方法かと存じます。 また、入力する側のモチベーションを向上させることについては議論しておりましたが、ご意見を頂戴したことで、学生が情報を受け取っているという実感が必要ではないかと考えました。例えば、教員が面談後に入力した結果に対して、学生がグッドボタンを押すなどのアクション機能を追加することで、記入する側のモチベーション維持につながるのではないかと考えました。	
D	情報量の多さ、というのはメリットにもデメリットにもなると思います。取扱選択できない学生にとっては、かなりのマイナスになります。現在、インフォメーションシステムでも個人伝言やお知らせなどがありますが、同様に情報過多になっております。学生にとってよりわかりやすい細分化とどのようなものなのでしょうか。具体的な案があれば教えていただきたいです。	ご質問ありがとうございます。 ご指摘のとおり、インフォメーションシステムの「お知らせ」・「個人伝言」やメール等、さまざまな情報共有ツールがあることで、どのツールでどんな情報が得られるかが分りにくくなっていると考えます。 それらのツールに対して、学生にとってわかりやすく細分化する方法の具体例としては、今回のD班の発表で取り上げたKICCSに焦点を当てると、文系と理系とに入口を分けること、選考に直接影響するインターンやそうでないイベント情報を分けることを想定しております。情報量の多さから学生にとって多様な選択肢があるということは大きなメリットではありますが、せっかくの情報を学生が抽出できず、欲しいと思っている情報を見つげないのならば、それは学生に寄り添った情報提供サービスとは言えないと考えます。情報の重要性の順序付けがしやすくなるためにも、情報提供ツールの検索手段の細分化を急ぐべきかと存じます。 また、D班の学生からは授業に関する情報が最も必要という意見もありました。現在、インフォメーションシステムでは、個人伝言でもフィールドワーク等のイベント情報が通知されています。そこで、個人伝言の通知内容を、専門演習の募集や授業変更などの授業情報に統一すれば、学生にとってはわかりやすいのではないかと考えます。また、お知らせに所属学部別の区分を設ければ、学生にとってはさらに情報の取扱選択が容易になると考えます。
D	キャリア形成補助金について、学生の選定基準はどのようなものを想定されていますでしょうか。 また、実際に活用されるとなると、事前支払い？それとも領収書払いになるのでしょうか。どちらの支払い方法にせよ、キャリアセンターの職員の業務がかなり増えることになると思います。その点を何か解消できるアイデアはありますか？	ご質問ありがとうございます。 まず、キャリア形成補助金制度の選定基準については、通常GPA・出席率の上位〇名で、または〇%までの者といった基準を考えております。その他に、有給のインターンでないこと、選考に直結するインターンでないことを想定しています。優秀な成績を収めている学生は評価されるべきであり、そういった学生に対する支援が現状少ない点から鑑みています。 支払いについては、1回あたりの限度額を決めたくうえで領収書払いにする必要があると思います。前払いですとインターンシップ自体が中止になった際に払い戻しなどの手続き増加が考えられます。また、キャリアセンターのみに業務負担がからぬよう、各学部の教務担当がデータを取りまとめた後、キャリアセンターへ送るようになっています。さらに、補助金の申請をオンラインのみで完了できるようにできれば、職員の負担を軽減できるのではないかと考えております。
E	国際力が低いのご指摘ですが、そもそも国際力を高めようという意思が学生にはないかもしれません。今回のメインターゲットとは違いますが、そのような学生の国際力を高め、関西大学全体の国際力を高めるためには、何が必要だと考えておられますでしょうか。具体的に教えてください。	・1年次からの必修科目である英語の運用見直しをすることで、ヒアリング・読解力だけでなく実践力も身につけることが可能となる ・発表では時間の都合上触れられなかったが、関大の国際力は「①英語を学ぶ力」「②英語を活用する力」「③異文化に配慮する力」「④異文化を理解する力」で構成されている。③④については外国語科目だけでなく、その他の共通教養科目・専門科目においても、学生が多様な価値観に触れる機会を設けることが重要と思われる。そのためにも各授業においては、異なる考えをもつと意見調整を図る活動(グループワーク・ペアワーク等)を、科目特性にあわせてより積極的に取り入れていくことが有効だと考える
E	学生にとってInstagramは最も利用しているということで、フォロー数を増やすことができれば、一番良いのかなと思いました。では、フォロー数を増やすためにはどのようにすればよいでしょうか。資料の後述の提案内容に記載されていなかったの、聞いてみたいと思料です。	・インスタグラムのQRコードやチラシを目につくところに貼ることで、アカウントにたどり着きやすくなる
E	LINEスタンプカードの運用で、想定されていることほどのようなのでしょうか。クーポンなどももらえるのでしょうか。協力団体は？運営に関することをご教示いただけますと幸いです。	・国際部のイベント時などに既に活用しているLINEスタンプカードを活用する ・スタンプをためるとプレゼントがもらえるなど、継続して行きたくなるような工夫をする(例:コーヒー券の配布など)